



ご挨拶

内田, 一徳

(Citation)

歴史文化をめぐる地域連携協議会予稿集, 13:1-2

(Issue Date)

2015-01-31

(Resource Type)

conference object

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81008741>



ご挨拶

神戸大学理事・副学長
内田 一徳

第13回 歴史文化をめぐる地域連携協議会へのご参加、ありがとうございます。

神戸大学大学院人文学研究科では、大学の地域貢献事業の一環として、平成14年(2002)11月、地域連携センターを設置しました。それ以来、歴史文化の保全・活用を目的とする自治体や住民団体との連携事業を進めてまいりました。各事業をご支援いただいている皆様にあつく御礼申し上げます。

センターでは各年度末に、1年間の活動を集約する意味をこめて、県内の自治体職員・市民団体代表者・大学関係の方々に一堂に会していただき、歴史遺産の保存・活用について議論する協議会(コンファレンス)を開催しております。これまで12回の協議会を開いてまいりました。

過去2年間の地域連携協議会においては、地域歴史遺産とは何なのか、あるいはその活用のために何が必要になるのか、などの点について議論を重ねてきました。議論半ばではありますが、それを通じてみえてきた点の1つは、歴史資料の分析によって得られた学術的成果や知識を、専門領域だけに閉じ込めることなく、地域社会の人々がもつ知的欲求や関心に結びつけ、両者間のコミュニケーションを豊かにする事の重要性です。

歴史文化を活かしたまちづくりにおいては、単にお国自慢的に郷土を誇ることや、地域の歴史性を無視した奇抜な観光資源の「創出」など、学術的成果と乖離した過去の歴史の動員も見受けられます。この間、地域連携センターの各地の活動に際して、そのような現場に直面することもあります。

これまでの地域連携センタースタッフの活動や取り組みによると、そうした方向性の食い違いを乗り越えていく糸口を提供するものは、それぞれの歴史遺産に蓄積されている多様な豊かな地域文化の広がりを住民の方々と共有し、その魅力を伝えていくことのように思われます。

そこで、今年度の協議会のテーマは、「改めて地域歴史遺産を問い直す」としました。地域連携センタースタッフのこれまでの実践を踏まえた報告を用意し、地域歴史遺産というものが、どのような可能性をもち、それをめぐる人々の関係や、それを支える環境の構築がどうあるべきかなどについて、活発な議論をしたいと思えます。

第1部は、近年新たな成果をあげている諸団体や自治体の活動報告を通して、関係者同士の交流と相互議論を深める場とします。第2部と第3部は、とくにこの間の大学の取り組みから見えてきたことを報告し、その成果や課題について関係者から意見をいただき、今後の地域歴史遺産の保全・活用の意義やその可能性を考えたいと思えます。活発な議論

をしていただければ幸いです。

なお毎年開いておりますこの地域連携協議会は、地域歴史文化に関わる皆さまの相互交流の場であると考えております。協議会の間には、時間をとり、各団体の方々が交流できるコーナーやポスターセッションの場を設けました。多くの方々に交流していただければ幸いです。

最後になりましたが、本協議会を共催していただきました兵庫県教育委員会に対して、あつく御礼申し上げます。